

広告特集

企画・制作
朝日放送テレビ
朝日放送社広告局



●聴診器で友達呼吸音を確認する●患者さんの目線レベルを合わせた心電図など現場で使う大規模な授業●初めて触れるパルスオキシメーターに興味津々、指を挟むことで脈拍と血中の酸素飽和度がリアルタイムでわかる



看護の心をみんなの心に
5月12日は
看護の日

職業体験で憧れの仕事が身近に
ふれあい看護体験
兵庫県 おおくまセントラル病院

病院などで、中学生・高校生や一般の人が簡単な看護体験や関係者との交流を行う「ふれあい看護体験」。7月30日朝、西宮北高校の生徒たちは白衣を身に着けて病棟へ。あいさつを済ませると、病室を巡回して血圧や体温を測っていく。「笑顔でね」。

この病棟を担当する看護師・安本馨梨さんが目配せをする。緊張しながら声をかけると患者さんから「やさしいのね、ありがとう」という声。その後はシーツ交換や食事・歩行の介助などを体験。体験を終えた生徒たちは「こんなに仕事の幅が広いと思わなかった」「忙しいのに皆さんずっと笑顔ですごい」と感想を述べる。耳を傾けていた南木勝子看護部長は「心を寄せることが看護の原点。自分たちが前向きに接すれば絶対に伝わります」と語りかけた。



プロが持つ
真剣な思いと
技術を感じて
ドキドキした

長い間持ち続けている看護へのあふれる思いに触れた生徒たちは、瞬きをするのも忘れて話に聴き入った。

聴診器を使って
生命の証しを聴く

授業後半は医療器具を使った体験をメインに展開。取り出されたのは聴診器と、脈拍や血中酸素を測るパルスオキシメーター(血中酸素飽和度計)だ。なかでも聴診器での呼吸状況のチェックは「当てる場所が聴こえ方が全然違う」「表と裏で使い分けられるんだ」と、実際に聴診器を手にして発見があったようだ。授業を終えて白衣を脱いだ高津さん。生徒たちは

その帰り際まで、質問を投げかける。「動める病院は選べますか?」「患者さんとの忘れられない思い出はありますか?」と話は尽きない。一つ一つ親身になって答えてくれる姿にすっかり打ち解けると「実は最近よく転ぶんです」という相談も。それに対し「めまいを感じることはない?」「吐き気は?」と尋ねる高津さん。医療現場で働くプロのまなざしと言葉に、生徒たちは目を輝かせて「看護師って、かっこいい」と声をもらした。

7/9 兵庫県立
西宮北高等学校

【講師】高津秀子さん 兵庫県立西宮病院 がん放射線療法看護認定看護師

「夢のかねえ方」を
高校生の目線で解説

看護の道を志す生徒が多く、数年前から職業体験として、病院での「ふれあい看護体験」を取り入れてきたという西宮北高校。昨年から、事前学習の場として「看護の出前授業」を導入している。

今回の講師は、生徒たちと同世代の子を持つ看護師の高津秀子さん。育児休暇以外はずっと現場に立ち続けてきた、キャリア25年のベテランだ。まずは保健師・助産師・看護師それぞれの資格や役割を紹介し、続いて大学や短期大学、専門学校といった進路の選択肢と特色を解説。

和やかに進む授業の空気が変わったのは、高津さんが看護の道を志したきっかけを語ったときだった。「体が弱かった弟を元気にしたいという思いを持ったこと、そして12歳のときに2歳年上のいとこを亡くしたことです。私の人生の大きな転機になりました」「元気づけたい」「生きるってどういうこと?」二つの想いを胸に10代を過ごし、迷わず看護の道へまっすぐな言葉で、時折声を震わせながら語りかける姿、そして

命と向き合ひ、夢に近づく

看護の出前授業

いつもは現場で働いている看護師・助産師・保健師が「看護職の魅力・やりがい」「命の大切さ」を中学生・高校生に伝える「みんなで話そう—看護の出前授業」。日本看護協会と都道府県看護協会が「看護の日・看護週間」事業の一環として行っている。10年目を迎えるこの取り組みは全国に広がり、今年も2万人を超える生徒が参加。授業を通して、どんな思いが芽生えたのだろうか。二つの授業の様子を紹介する。



全国の学校を
看護職が
訪問



日本看護協会のウェブサイト内「キャリア」欄のシゴトを使い、職業や進路を紹介

本日
午前11時30分から放送

BS朝日 特別番組

看護の心をみんなの心に
~夢をかねる看護の授業~

今回紹介した兵庫県立西宮北高等学校と福岡雙葉中学校での「看護の出前授業」の様子をBS朝日で放送します(30分番組)。ぜひ、ご覧ください。



「みんなで話そう—看護の出前授業」に関するご意見・お問い合わせは、
日本看護協会 広報部 koho@nurse.or.jp

看護の心をみんなの心に。



日本看護協会

http://www.nurse.or.jp/home/event/simin/

8/20 福岡雙葉中学校

【講師】縄田麻衣さん 福岡赤十字病院 看護師
太田純代さん 福岡赤十字病院 産婦人科病棟 看護部長

鼓動と呼吸を感じながら
今日からできる看護を知る

福岡雙葉中学校での授業は、看護職がどんな現場で働いているかを紹介することからスタート。講師の一人、縄田麻衣さんは「病院や保健所、学校や一般企業のほか、WHO(世界保健機関)や国際医療支援活動に携わって海外で活躍する人もいます」と、生徒たちが将来の夢をより大きく描けるよう、幅広い選択肢があることを伝える。専門知識を極めたプロの世界を感じさせながらも「看護は難しいものではなく、皆さんの生活の中にあります。今日はそれを体感しましょう」と続けた。

授業のポイントは、心拍や呼吸、体温といったバイタルサイン(生命の兆候)。患者さん一人一人について看護師が常に気にかけているものであり、昨今街中のいたるところに設置され認知されつつある

AED(自動体外式除細動器)を扱う上でも大切なもの。生徒たちは自分の胸に手を当ててゆくり呼吸をしてみるとや、ペアを組んだ相手の手首から感じられる脈拍を通して、命と向き合う授業に引き込まれていくようだった。そこにAEDの練習器と上半身模型が登場する。電極パッドの取り付け方を教わり、心臓マッサージに挑戦すると「骨が当たっているかも」「息が上がる!」と感想が飛び交った。「福岡市内で救急車を呼ぶと、到着までに平均して6分ほどかかります。この数分での処置が大切なのよ」と縄田さん。今日からできる命を教う技術を学んだ。

授業を終えた生徒からは「看護師はやりがいのある仕事だと感じた」「今の自分にも人の命を救うことができると分かった」などの声が上がった。誰にとっても看護は身近にあるもの。人を助け、寄り添うことの大切さや生きていることのすばらしさがたっぷりと伝えられた。

●縄田さんがAEDの使用方法を説明。「指ですら音ガイドに従ってください!」
●お互いの手首に触れながら脈をとる参加者には心臓マッサージをするためには手を強く握く位置も大切。太田さんが「胸骨を支点にしましょう」と正しい位置を伝える●心臓マッサージはヒジを伸ばして一定のリズムで胸を押す



「看護」って
こんなに身近に
あるものなんだ

